

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 19 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770252

研究課題名(和文)近代中国における地方官僚およびその機構に関する研究

研究課題名(英文)Research on the district bureaucrats in modern China

研究代表者

水盛 涼一 (MIZUMORI, RYOICHI)

東北大学・文学研究科・助教

研究者番号：20645816

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は中国の近代を官僚社会の変化から観察することにあった。というのも、清朝後期より増加の一途をたどった官僚たちは、国初以来の職務はもとより、数多の新規事業を担うこととなった。中央官僚は日々に拡大する隣接業務のほか外交など新たな分野の運営に携わり、地方官僚もまた近代化事業や商業振興といった新事業を通して濃密に地域社会へと分け入った。こうした彼らは辛亥革命にも柔軟に対応し勤務を続けた、中国の近代の結節点でもあった。先行研究のほとんど存在しない彼らにつき、本研究では当時の官僚名簿『同官録』や各種民営新聞を分析・整理してデータベースを作成、研究基盤の作成を行うとともに国内外で成果の発表を行った。

研究成果の概要(英文)：During the Tongzhi/Guangxu years at the end of the Qing Dynasty, the number of bureaucrats rapidly increased in response to wars and various other circumstances. Because they moved into roles related to the concurrent promotion of modernization, new social work and management of the new tax system, the most important challenge of local administration in the latter years of the Qing Dynasty was selecting human resources from the vast bureaucracy, assigning them to each area and managing the various projects well.

It was not beneficial only to the central government but also allowed local high-ranking officials to obtain backgrounds on Reserved-officials and functioned as a good system for capturing public sentiment. Additionally, the local bureaucrats hoped to attain distinction in the midst of temporary fairness. As it were, compromise and negotiation took place at every level, which allowed the bureaucrat system to be established.

研究分野：中国近現代史

キーワード：近代化 官僚制度 地方行財政

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の代表者は、平成 17 年より一貫して近代中国における官僚機構の構造分析を進めてきた。その主要な分析対象は**清朝後期**(1850 年～1912 年)における**地方の基層官僚**である。

彼らは「地方大官」と呼ばれる総督、巡撫、布政使といった地方高級官僚の指導下に、中国特有の「回避制度」により本籍地以外で勤務することとなった。地方大官が一部の例外を除き省(中国最大の地方行政区分)をまたいで頻繁に交代するなか、彼ら基層官僚は特定の省に長期間留任し大官を補佐したのである。

しかも清朝後期とは、彼ら基層官僚が激増した時期であった。太平天国(1850 年～1864 年)をはじめとして各地に反清勢力が決起すると、清朝は軍費等調達のために捐納と呼ばれる売官制度を実施、また保拳と呼ばれる人員推薦を許したため、任官すなわち「補」されるのを「候(ま)」つ、いわゆる「**候補官僚**」が増加することとなった。ただし、清朝は並行して近代化の推進や戦災地域の復興諸事業を行い、またその財源確保のために商業課税である「釐金」をはじめとする新税導入を図った。こうして候補官僚たちは任官を待つ間に**多様な新規事業の担い手**として各所へ「**委員**」として派遣されることとなった。以前の王朝でも官僚増加や新設官庁への派遣といった事象が見られることがあったが、清朝後期の場合はその加速の度合いや近代化への関与といった点で特徴的なものであった。

こうした官僚の増加や勤務形態の変容については、1950 年代の近藤秀樹より以降、岩井茂樹、伍躍らにより既に日本語により概略が示されてきた。中国でもまた 2007 年に蕭宗志が『候補文官群体与晚清政治』を出版するなど一定の成果を見ることができると。ただし、彼らはおおむね中央と地方大官との対立関係を描き、地方基層官僚は大官に随従するのみであったとする。そして地方大官の権限のみが伸張し、「督撫専権」といった様相を呈したと結論づけた。これは一部の有力な総督・巡撫の『文集』のみが簡便に閲覧できたことと異なり、多数の基層官僚が栄達せず、特殊に残された彼ら自身による少々の記録のほか彼らの貧窮した生活を興味本位に記録する雑記ばかりが伝来した結果でもあった。いわば研究が集中する地方大官にくらべ、**地方基層官僚とは従来に顔の見えない詳細不明な存在だった**のである。

## 2. 研究の目的

研究史はみな重厚なもので、分権的構造の深化といった観点は大いに首肯できるものである。とはいえ、総督・巡撫の文集はもとより、中国の公文書館(第一歴史資料档案馆など)に所蔵される原文書を使用してなお、省内行財政の実態は霧の中にある。新設官庁による各種局務は、筆頭委員たる総辦のほか、監督を行う上位者たる督辦、贊助者たる会辦、その補佐者たる提調らに担われたが、その任務にあった官僚の名すら容易には判明しえないのが現実である。

そこで本研究では、従来に利用されてこなかった各種資料に着目し、研究のほぼ存在しない基層官僚の実態を解明することを目指した。その詳細は下記の「方法」に記載したが、こうした作業を行えば、従来に資料的制約のため不明のまま措かれてきた彼らの実態に迫ることができる。しかもその成果は先行研究の述べる「督撫専権」の有り様を問い直し、従来の研究とはまた異なる中国近代社会の展開を描き出せるであろう。

## 3. 研究の方法

本研究の代表者は 2006 年より 2008 年まで中国上海の復旦大学へ留学、中国国立上海図書館をはじめとする中国東南部の各図書館を訪問している。ここでは日本に見られない各資料、なかでも官僚名簿『同官録』の存在が目をつけた。この『同官録』とはまさに清朝後期に始まる、中央各省や地方行政単位ごとの**全官僚の履歴を詳細に網羅**した書籍であり、当時の官僚により編纂されたものであった。

そこで本研究開始直前には、この『同官録』について、同時に発生した官僚による同郷親睦団体の設立や本書編纂の理由を分析、基礎的な研究成果を発表した。ここで『同官録』とは大官の人事査定や基層官僚同士の友好および縁故獲得を企図して編纂されたものと推定し得て、本研究の端緒を開いたのである。本研究ではこの方法をさらに深化し、また対象地域および対象年代を拡大して調査分析を行ったのであった。

## 4. 研究成果

中国の官僚は各地より本籍地以外で勤務し、退任すれば『同官録』とともに帰郷する。そのため『同官録』は中国各地に広く拡散し収蔵されることとなった。そこで代表者は北京市の国家図書館、上海市の上海図書館、江蘇省南京市の南京図書館、広東省広州市の中山図書館、国内では東京の東

洋文化研究所や東洋文庫を訪問、資料の調査収集に努め、そこで得た内容に基づき**官僚データベース**を作成した。

また当時の民営新聞は人事や法令に関する北京の公報『京報』を転載するほか、ほぼ毎日「撫轅事宜」といった形で地方各省の大官の動静を伝えていた。これら一本としては零細な記事を収集し、いわば自力で『同官録』を生成、さきの刊本『同官録』による官僚データベースの内容との対照を行い、さらなる分析を目指した。

この過程では東北大学所蔵にかかる上海の民営新聞『申報』(全400冊、上海図書館出版社、1985.12)や、同じく東北大学所蔵で『京報』と内容が一部共通する『邸抄』(全120冊、北京図書館出版社、2004.04)を利用するほか、本助成により『清末官報彙編』(全78冊、全国図書館文献縮微複製中心、2006.09)、『晚清珍稀期刊彙編』(全40冊、複製中心、2009.06)、『晚清珍稀期刊続編』(全40冊、複製中心、2010.07)および『国家図書館蔵清代孤本内閣六部档案続編』(全48冊、複製中心、2005.10)といった日本にほぼ収蔵されない貴重な資料を購入し分析対象に加えることができた。

こうして解明しえた結論を一部ながら紹介しよう。中央は地方行政の状況把握と候補官僚の整理を目指し、総督や巡撫といった地方大官もまた中央の命令を利用しながら下僚の状況把握および人心掌握を試み、地方基層官僚たちはかりそめの公平性のなかで栄達を願っていた。いわば、各層がそれぞれに譲歩と妥協を行い、変容する官僚社会を維持していたのである。そのなかで総督や巡撫は確かに絶対的な決裁権を持ちながらも、頻々と転入・転出を繰り返した。それに対し、基層官僚たちは長年それぞれの地方に勤務し各実務に通暁したため、往々にして現場を知り得ない地方大官を自説に誘導もしたのであった。このような分権的傾向のもと、各地で独自の近代化が図られていったのである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

水盛涼一、書評・磯部彰編『清朝宮廷演劇文化の研究』、『満洲史研究』、査読無、第14号、2015、0-0(掲載決定)

水盛涼一、清朝後期における中央基層官僚の基礎的考察 戸部の旗人官僚を中心として、『集刊東洋学』、査読有、第113号、2015、84-105

水盛涼一、解題・吉野作造明治期中国論

説集成、『東アジア文化交流叢書』、査読無、創刊号、2015、1-6

水盛涼一、天津の吉野作造とその時代 清朝における法政学堂を中心として、『東アジア文化交流叢書』、査読無、創刊号、2015、2-24

水盛涼一、清朝末期の候補官僚と人事評価 光緒初年の官僚試験制度導入を中心に、『東北大学文学研究科研究年報』、査読有、第64号、2015、31-63

水盛涼一、召見の風景 清朝後期における謁見儀礼の基礎的研究、『文化』、査読無、第77巻第1・2号、2013、1-24

[学会発表](計10件)

水盛涼一、科擧制與中央機關 以清末『戸部同官録』八旗官員爲中心、第十一屆科擧制與科擧學國際學術研討會(中国広東省広州市)、2014

水盛涼一、清末謁見制度論考 三種官員日記介紹與分析、中国社會科學論壇二〇一四・歴史學 第五屆中國古文獻與傳統文化國際學術研討會(中国浙江省杭州市)、2014

水盛涼一、清朝末期の中央官庁における基層官僚の実態 『戸部同官録』を中心として、東北史学会二〇一四年度大会〔東洋史部会〕(福島県福島市)、2014

水盛涼一、袁世凱與地方統治・官員教育 以法政學堂與日本人教習爲中心、第六屆晚清史研究國際學術研討會(中国甘肅省蘭州市)、2014

水盛涼一、清朝末期における税務管理機構の形成と発展 寧波の釐金局打ち壊しへの対応を中心に、第六十三回東北中国学会〔第二分科会(史学)〕(福島県福島市)、2014

水盛涼一、中國題名録文化 官僚名冊的形成與發展、第四屆中國古文獻與傳統文化國際學術研討會(中国香港特別行政市)、2013

水盛涼一、同郷会館の設立より見た清朝官僚社会の変容、広島史学研究会二〇一三年度大会〔東洋史部会〕(広島県西条市)、2013

水盛涼一、清朝後期の君臣關係 吏部尚書徐桐の皇帝謁見記載を中心に、東北史学会二〇一三年度大会〔東洋史部会〕

(宮城県仙台市) 2013

水盛涼一、清朝末期における中国の日本人、日中文化交流シンポジウム「吉野作造と近代中国」(宮城県大崎市) 2013

水盛涼一、清末鴉片事情考略 光緒年間におけるアヘン嗜好とその取り締まりの実態をめぐって、第六十二回東北中国学会〔第二分科会(史学)〕(岩手県岩手郡雫石町) 2013

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

水盛 涼一 (MIZUMORI, Ryohichi)

東北大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号: 20645816